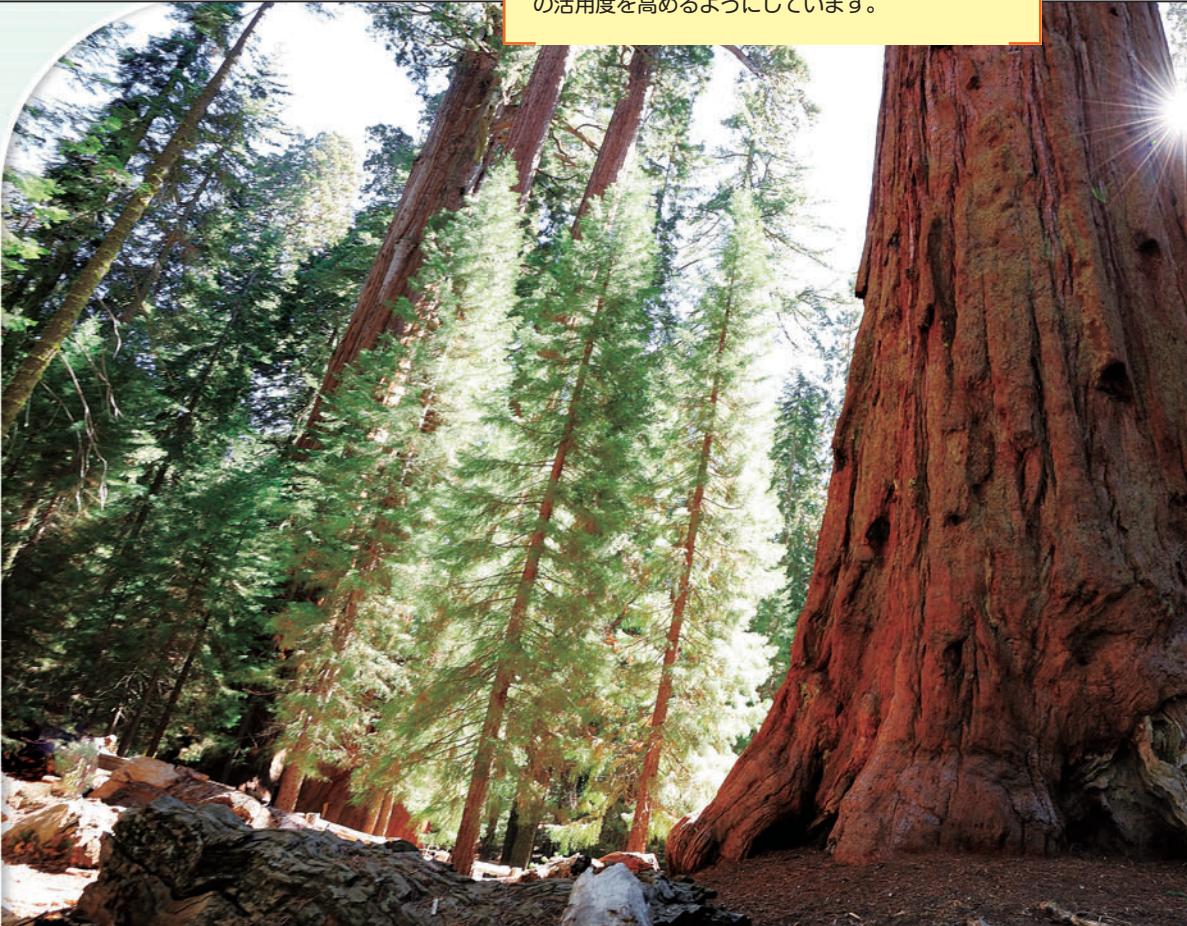


学習意欲の向上

● ダイナミックな単元導入

3

植物のつくりとはたらき



学習のめあて

植物と、水・空気・養分との関係について調べよう。

わくわく理科プラス
10~11ページ
(学習のはじめに)

42

生物である植物は、動物と同じように、生きていくためには水が必要である。

セコイアは高さが100mもの大木になる。このような大木でも、根から吸収した水は、いちばん高いところにある葉へも送られる。

植物の体の「つくり」や「はたらき」を調べていこう。



• 上の写真を見て、気づいたこと



植物が根から取り入れた水は、どこを通って葉まで運ばれるのだろう。

「学習のめあて」を示し、見通しをもって学習に入ることができるようになっています。

別冊「わくわく理科プラス」が、単元導入の授業をサポートします (→ p.6-7)。

▼ 6年 本冊 p.42-43



ことや、疑問に思ったことを話し合おう。

動物の血管のような、
水の通り道があるのかな。



43

単元導入では、適宜「話し合い」を設け、導入活動をスムーズに進められるようにしています。

7 電気で明かりをつけよう

電球で明かりをつけて日々を送るよ。

30~31ページ
(P.42-P.43)

110

電球の明かりは、いろいろなところで使われています。身の回りのどんなところで、使われているのか、調べてみましょう。

上の写真を見て、気づいたことや、疑問に思ったことを話し合おう。

このようにすると、自分の意見が聞かれる。自分の意見が聞かれないときは、自分で意見を述べよう。

111

▲ 3年 本冊 p.110-111

9 水のすがた

水のすがた、氷にようわらかさを比べよ。

30~31ページ
(P.110-P.111)

144

冬の寒い日には、水が氷になっていることがある。水を熱すると、湯気が出たり、あわが出たりする。水は、温度によってすがたを変えているといえる。水を熱したり、冷やしたりしたときの変化を調べてみよう。

上の写真を見て、気づいたことや、疑問に思ったことを話し合おう。

氷が溶けて水になるとき、なぜか水よりも重くなるのかな。氷が溶けて水になると、なぜか水よりも軽くなるのかな。

自分で温めたら、水が熱くなるよ。

145

▲ 4年 本冊 p.144-145

4 花から実へ

植物からいくつくりなり、実の大きさを比べよう。

16~17ページ
(P.144-P.145)

70

春から育ってきたハチマに、花が咲き、実ができ始めた。植物は、どのようにして実をつくり、種子を残していくのだろうか。

上の写真を見て、気づいたことや、疑問に思ったことを話し合おう。

花の咲く季節は、花が咲く季節と違うよ。

71

▲ 5年 本冊 p.70-71

学習意欲の向上

既習内容の確認

別冊「わくわく理科プラス」の「学習のはじめに」では、子どもたちが自ら書き込んで表現する活動を通して、学習意欲がより高まるようにしています。

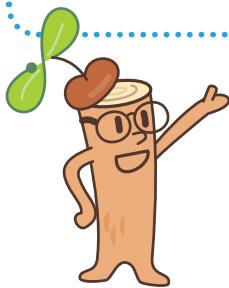
「思い出してみよう」では、単元毎に既習事項や日常経験を確認できるようにしています。



▲3年 本冊 p.84-85

別冊の「学習のはじめに」活用法！

- 単元導入の授業で使います。
- 既習事項や日常経験を確認することができます。
- 導入活動（問題づくり）の話し合いをスムーズに進めることができます。
- 単元導入の予習など、授業だけでなく家庭学習にも活用できます。



5

かげのできかたと太陽の光

教科書 本冊では、
84~85ページ

学習のはじめに

思い出してみよう！ これまでの生活を

- ① 家などの外で、かけを見たことがありますか。もしあれば、そのときのようすをかきましょう。

学校の帰り道で、
のかけを見た。大き
たて物のかけに
ると、自分のかけ
見えなくなった。

- ② 太陽が雲にかかると、かけはどう

かけがどこにお
かわからなくな
しまうと思う。

- ③ 夏に、木やたて物などのかけに入る

ひんやりして、す
しく感じると思

導入活動の充実

「考えてみよう」では、教科書本冊の導入写真を再掲載し、自分の気づきや疑問を書き込むことで、導入活動の話し合いを充実させ、観察・実験へ向けた主体的な言語活動ができるよう工夫しています。

指導書で「わくわく理科プラス」の内容について、完全サポートします（→ p.54-55）。

▼ 3年 別冊 p.22-23

生活を思い出して、次の問題に答えましょう。



5

考えてみよう！ 次の写真を見て、下の①、②に、自分の考えを自由に書いてみましょう。



① かけふみ遊びで、かけをふまれにくくするには、どうしたらよいと思いますか。

かけがができる向きを見て、かけと同じ方向へ動くようにする。木のかけに入らず自分のかけをつくらないようにする。

② かけふみ遊びをして、気づいたことを書きましょう。

どの方向に走っても、かけに向けて走ることができていた。

